

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400033		
法人名	飯倉居宅介護支援事業所有限会社		
事業所名	グループホーム 木もれ陽		
所在地	千葉市若葉区大宮町3099-1		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.iikura-group.jp/grouphome/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成30年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の介護状態と心身の特性を踏まえ、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう、医療と介護を24時間365日綿密に連携して、必要な支援をしています。また心身機能の維持・回復を図り、利用者の生活機能の維持・向上を目指しその人らしい生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設としては、利用者が安心・安全に暮らして頂けるための工夫として、各部屋にはカメラが設置され別室でも状況が確認できるようになっている。カメラは24時間稼働しており、後で時系列的に分析でき、ヒヤリハットなどはどこが問題であったのかが把握でき、その後の対応が出来る仕組みが取られている。また、健康の面からは、オーナーが整骨院の院長でもあり、医療面には大変に詳しく隣接するデイサービスも同じグループの施設で日常的に交流もあり、理学療法面からの健康に対する十分な体制が取られている。提携医との連携もこまめに行われ、訪問診療も頻繁に来て頂いており利用者にとって健康を重視した施設という特徴も見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『ほっと安らぐ家族的なくらしの場』をモットーに、利用者の個性を尊重しながら、利用者が生き生きと楽しくかつ当たり前の生活が送れるように努めている。なお、新入職員においては、研修期間中に理念や方針について学ぶ機会を設けている	3つの理念を事務所に掲げ朝礼時に唱和し、新入社員には研修期間中に徹底して教えている。毎月の定例会議に於いても理念を確認し、個々の気付いた点や改善点についても共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、積極的に参加するように努め、地域の人達とのふれあいを大切にしている。また、散歩の際には、ご近所の方々への挨拶を心がけ、地域とのつながりを充実させるようにしている。	地域の自治会に加入し、文化祭や音楽祭等にも積極的に参加している。事業所では、機能向上体操を地域の方々にも呼びかけて、公開して実施している。また、医師を招いて栄養学の公開講座も実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅サービスを受けているご家族が相談に見えた場合は面接により現在への状態を把握し、サービス事業者に紹介依頼すると共に認知症の相談は随時行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治体の役員・千葉市あんしんケアセンター職員・民生委員・利用者家族を招待し、ホームの活動報告や利用者の生活状態などの報告会議を三か月に1度開催し、意見交換及びサービスの向上に努めている。	今まで年6回開催していた運営推進会議を千葉市の方針で年4回に改めたが以前と同様に活発に活動している。委員の中からは、食事に関する特に糖尿病食や歯の無い方の食事についての質問が多く、これらの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの実情を常に理解してもらうために、生活保護課、介護保険課、地域包括支援センターの連携を密にし、問題が生じた場合には、早期解決に向けての対応を行っている。	市に対しては不明なことを聞きに行ったり、資料をもらいに行ったりしている。特にあんしんケアセンターとは電話等で密に連絡を取り合い、防犯に関することで警察や消防とも連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は皆無である。精神薬については、利用者の状態を主治医へ、的確に伝達し、指導を仰ぐと共に、薬を少なくする努めている。	千葉市の開催する講習会に初期・専門・実践等に分け、全職員に交代で受講させスタッフ会議の時に報告し共有している。施設内研修では、緊急やむを得ない場合以外は拘束行為を行ってはならない等対応について取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	効率的な話し合いの場を設け、日々利用者に接する言葉使いや対応について検討しながら、良心的な介護のあり方を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内定例研修で学ぶ機会を持ち積極的に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等を読み上げ難しい表現など分かりやすく説明し、そのつど質問に答え理解していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会議を開催し、面会時には、利用者の健康状態等をこと細かく伝え、特に変化があった場合には、迅速に、その都度連絡をするようにしている。	家族ごとに利用者、家族、ホーム長、ケアマネが集まり毎年家族会議を実施している。日常生活や身体状況(糖尿病や前立腺がん等)等についての質問や緊急を要する場合の対応等についての意見交換を行い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期会議を行い、そのつど意見交換を行い、グループホームの業務運営に関する情報を職員で共有し、速やかに対応している。	月末の土曜日に全員で定例会議を実施し意見交換を行っている。会議録は後日全員が確認し共有している。言葉使いについては常に相手の立場になって言う、入浴介助は無理をしないで手伝ってもらう等毎回意見や提案が多くあり、支援や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気持ちよく話し合い、相談ができる職場環境を整えるように心がけるとともに、職員が、明るく生きがいを持って働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会において職員一人ひとりが取り組んでいる研修の成果の報告会を行っている。また、資格取得に関しても積極的に取り組むよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流や情報交換は常に行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者面接において病歴、生活暦など聴取し、困っていることは何か、どんなことで心配しているかなど、本人との会話の中で、理解をし、把握することによって、家族同様に接するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちを取り除くため、家族会議や電話等にて連絡を取り合い、協力し合いあっていく中で、理解を深めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の環境変化に伴い精神面のケアに力を入れると共に健康面で機能が低下しないよう、機能回復運動を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と同様な関係づくりに力をいれており、料理、掃除など家で行っていたことはホームでも行うよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に。利用者が『今日は楽しかった』といえるような生活環境を工夫している。面会時には雑談をまじえた会話でコミュニケーションをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい対応環境づくりに努力している。写真や居室に飾るなどして新しい生活に戸惑いのないよう工夫している。	毎月道の駅等へ外食に出かけたり、季節毎にいちご狩り・花見・バラ園・ブドウ狩り等へ行ったり、以前よく買い物をしてきた利用者と洋服を買いに出かけたり、近隣の造園業者の所へ季節の花を見に行ったりして、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を送る上で最低限必要なルールやマナーを守ることの大切さ、共同作業、レクリエーションを通して助け合いの精神が芽生えるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても信頼関係を大切に、いつでも立ち寄ることの出来るほっとで家族的なホームにすることを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ご本人の意見表示を見逃さず、利用者の満足のいく介護や主体性の確立を、目指すように心がけている。	言葉にしなくともトイレに行きたい時に利用者が立ち上がるのを見逃さず、職員はトイレ誘導を自然に出来るようにしている。本人の意思表示以外に職員は申し送りに記載されたことや健康観察記録の特記事項に一言コメントが書かれていれば、それを必ず確認している。これらのことを通常業務の中で頭に入れて利用者の思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・利用者本人からの生活歴・生活環境についての話を聞くなど、情報収集を行いニーズにあったケアプランを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないこと・出来ること・今何をして欲しいのか、日々の会話や態度からその人の個性にあった対応の仕方を工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護担当者やご家族と協議しながら最新の情報を元に最良のプランを作成している。医師の意見を参考にし、現状に即した計画を作成している	ケアプランの見直しは半年に1回を目安にしている。ケアプランの作成に当り普段からオーナーが医師と情報交換をされており、加えて看護師からの情報提供を頂いている。入所前のデータを基に現在の状況確認をしながら、本人、家族の要望を聞き協力医の助言を受けオーナー、ホーム長、管理者によるケアプランの作成が行われ家族の了解を得て進められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個々の健康観察記録・日々の生活の記録を作成し、職員間で意見交換などを行い、目標設定を基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとの交流を積極的に深めるなど、既存のサービスにとらわれずに柔軟な支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護者間での地域の資源を把握し、地域での行事等にはなるべく参加し交流を持つ努力を行うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診予定日に家族の都合がつかない場合には、車での送迎を行い、家族に変わって病状を医師に伝えるなど支援している。また施設協力医に往診を依頼している。	かかりつけ医からは医療機関を移すことにするとサービスの一貫性がなくなるため極力連携を切らないようにという要望もある。施設としてはかかりつけ医への通院が必要があれば、車で送迎もしている。医師と情報を密にしていく上でも診療情報提供書を頂く様にし、協力医とも情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康観察記録を常時にとり、適切な情報を看護師に報告し、体調に異変が生じた場合には早急に連絡、相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	地域の医療機関とは良好な関係にあり、情報交換や病気に対する適切な処置の仕方などアドバイスを受けるなど連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては事前に家族との会議を開き不安を抱くことのないよう説明し、連絡体制や協力医師の連携も確立出来ている。	終末期を迎える場合にはどのように対応していくかは入所時の契約書で「重度化した場合における（看取り）指針」という内容で盛り込まれ家族の了解を得ている。当施設の協力医である宮内泌尿器科医院からは頻繁に往診に來られており連携は密になっている。事前の家族会議を開くことで十分に対応できる体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対処や事故発生時の対処法などマニュアルを作成し、職員はいつでも確認する事が出来る。緊急時を想定し訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消火訓練も行っている。特に夜勤者が一人の場合における避難訓練については、厳密な計画により避難活動を行なうとともに、介護者の役割分担の確認と自覚を持った行動がとれるよう地元消防署との協力体制や地域との協力体制を整えている。	春に地震、秋に火災訓練を行っているが監査人からの指摘もあり、夜間を想定した火災・地震訓練も行われている。訓練に当たって、職員に役割担当を決めて行っており、利用者も医師に確認の上参加してもらっている。火災訓練ではレンタルの水消火器を使った訓練が行われ、利用者も加わり大いに盛り上がり活躍していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな場合でも利用者を尊重し、温かみのある言葉使いで対応し、気配り・眼配り・細かい配慮を絶やさずに行動できるよう心がけている。	利用者の名前を統一して〇〇さんと呼ぶのが本当に尊重することになるのか、施設としては本人にとって親しみのある呼び掛けを重視することを選択している。例えば、入所前に研究活動をされていた方が××博士と呼ばれていたならば「博士」と呼ぶことで反応を示してくれることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者との信頼関係を築き、何でも話せる雰囲気づくりをして心のうちを察することが出来るよう、努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状態を把握し、個別のプランの元に満足のいく生活が出来るように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛は定期的に施設に床屋に来てもらいカットする。衣服に汚れなどある場合はこまめに着替えをして清潔を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が重くなり、食事作りが難しくなってきたが、外食に出掛ける際には、どんな物が食べたいのかを話しあって計画を立てたり、ホームで食事を作る際にも役割分担を行って、楽しい食事作りを考えたり、ひとときを家族意識を持って行うことが出来るように働きかけている。	基本的に、利用者は食欲がある。食欲の無い人には理由を確認することになっている。食べるのが面倒だという利用者には何気なく「ちょっと食べてみて」と感触を探ってみる。それは、口から物を食べることが大切であるということを大事にしているという目的からである。食事時には利用者も加わって準備しているが、自分にも役割があり参加することで満足感を味わって頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量、食事摂取量のチェックを行い、栄養バランスの取れた食事を心がけている。また、糖尿病の利用者には、食事と運動のバランスに十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科を利用し、義歯の調整、歯磨きやうがいの指導も受けている。食後の口腔ケアも毎回行い、一人で出来ない利用者は職員が援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立のためトイレ誘導をこまめに行い、利用者の行動、健康観察記録から排泄パターンを把握し、早めに介護するよう心がけている。排便が困難なときには、医師に相談し、下剤を処方していただいている。	健康観察記録を確認することで利用者の排泄のパターンが読めるし、通常はその時間に合わせたトイレ誘導をしている。こまめなトイレ誘導で排泄の失敗を防ぐことが利用者にとって生活のリズムが取り易くなるという効果をもたらすことにもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から運動、水分、バランスの取れた食事をするなど便秘の予防をしている。排便が困難な場合には、医師処方の下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保たれるよう入浴日を計画している。入浴時間も体調を考慮しながら、心身共にリラックスし入浴できるようにしている。	一人当たり30分位の入浴時間を掛け、入浴中は利用者の方にくつろいでもらえるように心掛けている。入浴を楽しんでもらう上で、ゆず湯、しょうぶ湯、バラ湯等季節に応じた入浴に変化をつけることで、皆さん昔を思い出されることも多いようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・離床時間は本人の意思に基づいている。居室にて本を読んだり、音楽を聴いたり、ご自宅にいる時と同様にリラックスしていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、飲み忘れがないようにチェック表を用いている。個別の薬や情報ファイルを作成し、薬の目的・副作用等の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で一人ひとりの役割を明確にし、張り合いのある生活に努めてる。個々の趣味も生かせるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩など外に出る事を心がけ、月ごとの行事計画には、外食会、花見など外出の機会を積極的に取り入れる努力をしている。	近くには公園があり、施設からの散歩コースをいくつか作っている。利用者には、この道ではなくこっちの道で行くのが良いのだよと道案内をもらい頭を使ってもらう工夫もされている。散歩することで気分転換にもなるし健康維持にも繋がり、口数の少なかった利用者も散歩を通して他の人との交流が図られ、相手を気遣う一面も見られるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は、金銭管理が出来ないため、本人から申し出があるときには、ご家族の了解の下で、職員が付き添って、買い物出来る環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をすることが出来るようになっている。手紙については、宛名書きなどを介護者が手伝い、希望があれば一緒に、ポストまで、投函に行くなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に利用者と職員で作成した季節を感じることを出来る壁画を飾っている。日中は、音楽を流し、居心地よく生活できるようにしている。	一日の大半を過ごすホールは先ず安全面からもカメラを設置して、別の部屋からでも確認が出来るようにされている。ホールでクリスマスツリーが飾られたがハサミで紙を切る人、糊を付ける人、出来た輪を飾る人等それぞれの役割に対して楽しんでおられた。普段はホール内にBGMを流し、くつろいでもらう工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテレビがあり、利用者全員で見ても楽しむことが出来る。ソファで昼寝をしたり、おやつを食べたりと、リラックスできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく昔から使っているものをご自宅から持ってきていただき、安心して居心地よく生活してもらえるよう支援している。	自分の家にいたときの延長と感じてもらう上でも入所前の持ち物を持ち込んで良い事にしている。居室には、孫、ひ孫の写真が飾られ家族と一緒にあるという環境作りにも配慮している。また安全面ではカメラを設置しているが、必ず職員は目視で確認するように指導されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人の意思表示を見逃さず、利用者の満足のいく介護や自立した生活が長く続けられるような環境づくりを利用者と共に確立してゆくことを心がけている。		